

# 令和 2 年度 子育て支援推進状況報告書

（「すまいる子ども・若者プラン」進捗状況）

令和 3 年 6 月

三条市 教育委員会  
子育て支援課



安心して子育てを楽しむことができ、  
子ども・若者の笑顔があふれるまち

ライフステージに応じた  
総合的で一貫した子育て支援

## I 子育てと仕事の両立プロジェクト

〈第2期の主な取組〉

- |                       |   |
|-----------------------|---|
| 1 多様なニーズに対応した保育環境等の充実 | 3歳未満児の保育の拡充／病児・病後児保育の充実／一時預かりの拡充／保育士確保の推進 ほか                  |
| 2 子どもの放課後等の居場所の確保     | 児童クラブの充実／放課後の子どもの居場所の充実 ほか                                    |
| 3 男性の家事、子育て参加の促進      | 子育て世代に対する意識啓発の推進 ほか   |
| 4 出産のために退職した女性等の再就職支援 | 他機関と連携した就職先の紹介／再就職に向けた就労相談会等の実施／再就職のためのセミナー等の実施／再就職マッチング事業 ほか |

## II ハッピー子育てプロジェクト

- |                  |                                 |
|------------------|---------------------------------|
| 1 親子が集える場づくり     | 子育て支援センターの拡充／屋内で思い切り遊べる施設の充実 ほか |
| 2 親子で楽しめる公園の整備   | 既存公園の遊具等の整備 ほか                  |
| 3 子育て家庭へのサポートの充実 | 利用者支援事業の実施／産後ケア事業の実施 ほか         |

## III 子ども・若者の健やかな成長プロジェクト

- |                       |  |
|-----------------------|--|
| 1 母子保健、家庭教育の充実        | 母子の歯科保健の充実／「眠育」(早寝、早起き)の啓発強化／乳幼児とのふれあい体験の充実 ほか |
| 2 子どもの発育・子育て相談の充実     | 相談事業の充実／子育てに関する情報発信の充実 ほか                      |
| 3 子ども・若者の社会形成、社会参加の推進 | 子ども・若者の意見表明機会の充実 ほか                            |

## IV 子ども・若者支援プロジェクト

- |                       |  |
|-----------------------|--|
| 1 子ども・若者総合サポートシステムの充実 | 養育支援訪問事業の充実／被虐待児童及び問題行動児童の進行管理の強化／若者への支援体制の強化 ほか |
| 2 三条っ子発達応援事業の充実       | 年中児発達参観の全市実施／発達支援に係るコーディネーターの資質の向上 ほか            |

## V 子ども・子育て応援社会プロジェクト

- |                         |                |
|-------------------------|----------------|
| 1 子ども・子育て家庭を支えるまちづくりの充実 | 関係団体への支援の強化 ほか |
| 2 地域における安全・安心の確保        | 通学路の確認 ほか      |

## 2 プランの進捗を表す指標

### (1) プラン成果指標

	指 標	(H25実績)	H30実績	R 5 目標値
1	合計特殊出生率	(1.48)	<b>1.43</b>	<b>1.58</b>
2	子育てに不安を感じている人の割合	(70.5%)	<b>64.4%</b>	<b>50%</b>
3	子育てについての相談先を知っている割合	—	—	<b>90%</b>
4	子育てを負担と感じている人の割合	(38.4%)	<b>21.2%</b>	<b>25%</b>
5	子育てに幸せを感じている人の割合	(92.0%)	<b>83.8%</b>	<b>99%</b>
6	父親が家事や子育てをしていると思う人の割合	(72.8%)	<b>64.8%</b>	<b>90%</b>
7	子育てと仕事が両立できていると思う人の割合 (仕事をしていない人を除く。)	(69.4%)	<b>74.6%</b>	<b>80%</b>
8	保育が充実していると思う人の割合	(32.4%)	<b>33.4%</b>	<b>70%</b>
9	三条市が子育てしやすいまちになったと思う人の割合	(47.9%)	<b>24.7%</b>	<b>70%</b>

### (2) プロジェクト成果指標

※ 各プロジェクト下の施策ごとに、次のように成果・効果の指標を設定する。

施 策		指 標	H30実績	R 5 目標値
I 子育てと仕事の両立プロジェクト	1 多様なニーズに対応した保育環境等の充実	女性の就職率	54.0%	68.0%
		待機児童数（毎年度10月1日現在）	5人	0人
		一時預かり事業の利用者数（平日・休日）	平日 2,225人 休日 734人	平日 2,500人 休日 800人
	2 子どもの放課後等の居場所の確保	児童クラブの利用率	19.2%	25.0%
	3 男性の家事、子育て参加の促進	3か月健診のアンケート調査で、父の育児参加について「よくやっている」と答える人の割合	58.8%	80.0%
	4 出産のために退職した女性等の再就職支援	女性の就職率【再掲】	54.0%	68.0%
就労相談会等参加者数		372人	400人	

施策		指標	H30実績	R5目標値
II ハッピー子育てプロジェクト	1 親子が集える場づくり	子育て支援センター利用者数	20,871人	22,000人
		子育て拠点施設利用者数	81,678人	85,000人
	2 親子で楽しめる公園の整備	公園来訪者数(保内公園、しらさぎ森林公園、中浦ヒメサユリ森林公園、かわまち交流拠点施設)	76,650人	151,000人
	3 子育て家庭へのサポートの充実	子育て支援情報メールの登録者数	2,877人	6,000人
		子ども一人当たりの児童福祉費	504,152円	増加
		子ども一人当たりの母子保健費	27,838円	増加
III 子ども・若者の健やかな成長プロジェクト	1 母子保健、家庭教育の充実	子ども一人当たりの虫歯本数(5歳児)	0.97本	0.70本
		子ども一人当たりの母子保健費【再掲】	27,838円	増加
		睡眠時間が9時間未満の5歳児の割合	39.6%	20%
	2 子どもの発育・子育て相談の充実	子どもの発育・子育て相談の件数	401件	420件
		子育て支援情報メールの登録者数【再掲】	2,877人	6,000人
	3 子ども・若者の社会形成、社会参加の推進	不登校児童生徒の発生率の全国平均との差	小学校 +0.04% 中学校 -0.31%	小学校 -0.15% 中学校 -0.37%
勤労青少年ホーム(ソレイユ三条)35歳以下登録者数		130人	210人	
IV 子ども・若者支援プロジェクト	1 子ども・若者総合サポートシステムの充実	子ども・若者総合サポートシステム登録希望者数	87人	100人
		青少年相談件数	254件	380件
		三条地域若者サポートステーションでの進路決定割合	8.9%	10.0%
	2 三条っ子発達応援事業の充実	年中児発達参観前に特別な支援や配慮を要する子どもに気付く割合	85.2%	89.0%
V 子ども・子育て応援プロジェクト	1 子ども・子育て家庭を支えるまちづくりの推進	青少年育成市民会議小学校区・地域育成活動助成金申請件数	13件	18件
		サンキッズカード累計交付枚数	4,443枚	5,000枚
	2 地域における安全・安心の確保	安心・安全情報メールの配信登録者数	8,586人	12,000人

(1) 施策の状況

ア 多様なニーズに対応した保育環境等の充実

- 3歳未満児保育の拡充を進めているものの、引き続き年度途中で待機児童が生ずる状況にあり、その解消に向けより一層保育士確保に注力していく。
- 子育て世代からのニーズも高い病児・病後児保育事業については、新型コロナウイルス感染症の状況を注視しつつ確実にサービスを維持し、併せてその改善に取り組んでいく。

指標の状況						第2期の主な取組項目	令和2年度の実績	令和3年度の実績
H30	R元	R2	R3	R4	目標値			
<u>女性の就職率</u>						3歳未満児の保育の拡充	小規模保育事業所ハッピー第六保育園を認可し3歳未満児保育を拡充したほか、インマヌエル・ルーテル幼稚園及びつくし保育園の施設整備に対して支援した。	つくし保育園の施設整備に対して引き続き支援を行うことで、保育の更なる拡充に努める。
54.0%	56.2%	51.1%	%	%	68.0%			
<u>待機児童数</u>						病児・病後児保育の充実	病児・病後児保育ルームなのはなでは、新型コロナウイルス感染症対策による利用制限のため、利用者が大幅に減少した。 (延べ利用者数 176人 (対前年度比 77.3%減))	利用しやすいサービスを目指し、病児・病後児保育ルームなのはなの料金体系等の見直しの検討を行う。
5人	6人	4人	人	人	0人			
<u>一時預かり事業の利用者数</u>						一時預かりの拡充	平日は子育て支援センター、休日はすまいるランド及びあそぼってにおいて、それぞれ一時預かり事業を実施し、計2,882人の利用があった。 (対前年度比9%減)	秋に開設予定のつくし保育園子育て支援センターにおいて平日一時預かりを実施するため、引き続き、実施主体の社会福祉法人との調整を行う。
(平日) 2,225人	(平日) 2,370人	(平日) 2,216人	(平日) 人	(平日) 人	(平日) 2,500人			
(休日) 734人	(休日) 805人	(休日) 666人	(休日) 人	(休日) 人	(休日) 800人	保育士確保の推進	途中入所対応のための前倒し雇用保育士が確保できず、年度途中で待機児童が生じた。 他方、保育士確保へつなげる方策として、潜在保育士の学び直しを支援する保育士有資格者サークルを立ち上げた。(3/31現在参加者 12人)	引き続き、保育士有資格者サークルの参加者拡大を図りつつ保育士確保につなげていくほか、保育士不足へ対応していくため有資格者以外の者が担える業務の検討を行う。

## イ 子どもの放課後等の居場所の確保

- 子どもの放課後等の居場所確保に係る各般の取組については新型コロナウイルス感染症の拡大が大きく影響しており、児童クラブについては対策を施しつつ取組を維持しているものの、放課後子ども教室を始めとする他の取組については運営体制等の課題から中止せざるを得ない状況も生じている。
- 子どもたちの安全・安心の確保のため、まずは新型コロナウイルス感染症対策を確実に講じつつ、取組実施の場とそれを支える体制の維持、そして環境の改善に取り組んでいく。

指標の状況						第2期の主な取組項目	令和2年度の取組成果	令和3年度の取組計画
H30	R元	R2	R3	R4	目標値			
児童クラブの利用率						児童クラブの充実	引き続き、児童クラブ19施設30クラブにおいて児童の受入れを進めたほか（3月末時点登録者数990人）、支援が必要な児童の預かりを行うため、新たに「さんさん児童クラブ」を開設した。	令和2年度に開設した「さんさん児童クラブ」を増設するなど、子どもの状態に応じた支援が図られるよう体制を構築するとともに、老朽化した児童クラブ施設への対応を検討していく。
19.2%	23.0%	21.5%	%	%	25.0%			
						放課後の子どもの居場所の充実	新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、放課後子ども教室を始め、子どもたちが放課後に集える場の提供をいったん中止した。	新型コロナウイルス感染症対策を施しつつ活動を継続することについて、対応方針や体制等の検討を行う。

## ウ 男性の家事、子育て参加の促進

- 男女が共に家事や子育てに携わることが自然な社会風土となるよう、特に男性のマインドに響く効果的な場面や手法により、引き続き、意識の醸成を図っていく。

指標の状況						第2期の主な取組項目	令和2年度の取組成果	令和3年度の取組計画
H30	R元	R2	R3	R4	目標値			
3か月健診のアンケート調査で、父の育児参加について「よくやっている」と答える人の割合						子育て世代に対する意識啓発の推進	男女の性別にとられない家事の関わり方について考えるきっかけとするため、引き続き、婚姻届の提出時に、窓口で記入型の「家事シェアリングリーフレット」を配布した。	引き続き、リーフレットを効果的に配布するとともに、育児休業を取得する市職員の実体験を発信していくなど、効果的に情報発信し意識の啓発・喚起を進めていく。
58.8%	62.1%	66.8%	%	%	80.0%			

## (1) 施策の状況

## エ 出産のために退職した女性等の再就職支援

- 再就職を希望する女性への支援として、引き続き、各種セミナーや座談会形式の相談会を実施した。  
 三条市に住所のある女性の新規求職者に係る就職率を見れば2人に1人強が就職している状況にあるが、ウイルス禍もあり有効求人倍率が一時期に比べ下落している状況（R3.3：1.46←H31.3：2.13）であることを考え合わせれば、決して安定した雇用情勢とは言えない。  
 加えて雇用に当たっては、職種や雇用条件等のミスマッチなども生じており、就労相談会やセミナーの開催などに引き続き注力していくことはもちろん、事業者の雇用意識の改善も働き掛けていく必要がある。

指標の状況						第2期の主な取組項目	令和2年度の取組成果	令和3年度の取組計画
H30	R元	R2	R3	R4	目標値			
女性の就職率【再掲】	54.0%	56.2%	51.1%	%	%	68.0%	他機関と連携した就職先の紹介 女性が応募しやすい職種（看護職員）に絞った就職ガイダンスについて、ウイルス禍の中、令和2年度はオンラインにより開催された。（前年度は市で後援したがオンライン開催のため後援不要となった。）	女性が応募しやすい職種に絞った就職ガイダンスなど、よりターゲットに響く他機関との連携を探っていく。
再就職に向けた就労相談会等の実施							再就職に向けた就労相談会等の実施 子育て中の女性の再就職に向け、「ママのための就労相談応援デー」を設け終日ママ向けの相談会を実施したほか(4回)、座談会形式の相談会(1回)を実施した。（参加者 延べ15人）	再就職を目指す子育て中の女性を対象にしたセミナーを開催するなど、再就職に対する不安解消やアドバイスを行う。（年5回実施予定）
就労相談会等参加者数	372人	102人	31人	人	人	400人	再就職のためのセミナー等の実施 仕事と家庭生活との両立のため「働く女性のためのスキルアップセミナー」を開催した。（全2回、参加者 延べ16人）	引き続き、仕事と家庭生活との両立のため「働く女性のためのスキルアップセミナー」を開催する。（11月開催予定）
							再就職マッチング事業 事業所対象のセミナーを開催しつつ、「三条おしごとナビ」の活用によりマッチングを推進した。（人材確保に関するセミナー開催 5事業所7人参加）	引き続き「三条おしごとナビ」を活用し、再就職希望者向けの情報を発信するほか、事業所向けのセミナーを開催する。



## (2) プロジェクトの総括と評価

### 〈総括〉

- 子育てと仕事の両立のため、3歳未満児保育の拡充を図りつつ保育施設の充実を図るとともに、病児・病後児保育ルームの運営や休日一時保育の実施などのソフト事業についても推進してきた。  
しかし、その前提としての保育士の確保については、その前倒し雇用に取り組んできたものの、必要な人数が確保できず、年度途中の待機児童が解消できない状況が続いている。  
今後は、昨年度立ち上げた潜在保育士の学び直しを支援する保育士有資格者サークルにより多くの人材を集め、保育士確保へつなげる人材バンク的役割を定着させていく。
- また、核家族化等により、仕事を持つ保護者にとって不可欠なものとなっている児童クラブの運営については、ウイルス禍において、まずは感染症予防対策を第一と捉え子どもたちの安全・安心を確保し、確実な預かり環境を維持していく。
- 男性の家事・子育てへの参加の取組については、アンケート結果では父親が育児参加について「よくやってくれている」との評価が6割強と向上しつつあり、わずかずつながら着実に父親の行動変容は進んでいる。引き続き、意識の啓発・喚起に取り組んでいく必要がある。
- 子育てと仕事が両立できる環境の形成については、ハード、ソフトの両面から取組を施し、着実に推進してきているが、共働き世帯が高い割合で占める中、未満児保育のニーズや就学後の児童の保育ニーズは依然として高いことから、安心して子育てと仕事を両立できるよう、特に保育士の確保や児童クラブの安定的運営などに注力し、子育て環境の充実を図っていく必要がある。

### 〈評価〉

停 滞	やや停滞	着 実	やや推進	推 進
-----	------	-----	------	-----

#### (1) 施策の状況

##### ア 親子が集える場づくり

- 身近で親子が集える場所として、子育て支援センターを市内7か所に設置しているが、更なる充実を図るため、大崎地区におけるつくし保育園移転改築に伴う子育て支援センターの設置事業を支援した。
- 子育て支援センター及び子育て拠点施設（すまいるランド、あそぼって）などの利用については新型コロナウイルス感染症の影響を受け大幅に減少しているが、子どもたちの安全・安心な遊び場の確保のため、まずは感染症の拡大予防対策を確実に講じつつ、親子が共に集える場を継続的に提供できるよう努めていく。

指標の状況						第2期の主な取組項目	令和2年度の取組成果	令和3年度の取組計画
H30	R元	R2	R3	R4	目標値			
子育て支援センター利用者数						子育て支援センターの拡充	令和3年秋の開設に向け施設整備を進める法人に対し、整備事業費の補助を行った。	開設に向け引き続き法人へ補助し、併せて子育て支援センターの開設準備に係る支援を行う。
20,871 人	19,316 人	16,412 人	人	人	22,000 人			
子育て拠点施設利用者数						屋内で思い切り遊べる施設の充実	青少年育成センターのプレールームの遊具等の充実と併せものづくり学校体育館を遊び場として開放した。また、すまいるランドとの一体的な利用も意図しつつ、栄保健センターロビーに遊具等を設置し小学生児童が遊べる場所を創設した。	新型コロナウイルス感染症対策を徹底しつつ、すまいるランドやあそぼってなどを運営していくとともに、公共施設の開放等による子どもの遊び場を確保していく。
81,678 人	75,022 人	38,871 人	人	人	85,000 人			

##### イ 親子で楽しめる公園の整備

- 総合運動公園、大崎山公園の遊具の更新や整備を行い、子育て中の親子と一緒に安心して楽しめる場の充実を図った。総合運動公園においては思い切り体を動かして楽しめるアスレチック遊具を、大崎山公園においては展望テラスや子ども向けマウンテンバイクコースをそれぞれ整備するなど、景観や自然等、その公園が有する強み・魅力を活かしつつ、親子が自然と触れ合いながら共に楽しめる場として整備を行った。

指標の状況						第2期の主な取組項目	令和2年度の取組成果	令和3年度の取組計画
H30	R元	R2	R3	R4	目標値			
公園来訪者数						既存公園の遊具等の整備	引き続き各公園の遊具の安全点検や修繕を行ったほか、総合運動公園トリムの森及び大崎山公園の遊具・設備を整備しリニューアルした。	しらさぎ森林公園の遊具の更新や木道の修繕を行う。
76,650 人	145,510 人	93,041 人	人	人	151,000 人			

## (1) 施策の状況

## ウ 子育て家庭へのサポートの充実

- 当市が全国に先駆けて設置し運営してきた「子どもの育ちサポートセンター」をもって、国が示す「子育て世代包括支援センター」の機能を担わせることとし、引き続き、機能の充実を図っていくこととする。
- 令和3年度から産後ケア事業を開始し、産婦及び乳児に対し心身のケアや育児のサポート等の支援を行っていく。
- 子育て世代の経済的負担の軽減のため、子ども医療費助成事業について、助成期間を現状の「中学校卒業まで」から「高校卒業まで」に拡充する（令和3年8月施行）。

指標の状況						第2期の主な取組項目	令和2年度の実績	令和3年度の実績
H30	R元	R2	R3	R4	目標値			
子育て支援情報メールの登録者数	2,877人	3,639人	3,995人		6,000人	利用者支援事業の実施	当市の子どもの育ちサポートセンターの機能が、国が示す子育て世代包括支援センターの要件に照らし適うものであるか当市センターの目的、業務を点検し、国の示す枠組みの中で母子保健型として位置付けることとした。	子どもの育ちサポートセンターを子育て世代包括支援センターと位置付け、保健師等が専門的な見地から相談支援等を実施する。
子ども一人当たりの児童福祉費	504,152円	516,690円	(概算) 550,168円		増加			
子ども一人当たりの母子保健費	27,838円	28,571円	(概算) 25,789円		増加	産後ケア事業の実施	令和3年4月施行を目指し、産後ケア事業の制度構築及び実施に向けた産科医療機関との調整等を行った。	産後ケア事業を開始し、産後ケアを必要とする出産後1年を経過しない産婦及び乳児に対して、心身のケアや育児のサポート等を実施し、産後も安心して子育てができるよう支援を行う。 あわせて、利用者等の意見を聴くとともに産科医療機関等と情報共有し、ケアを必要とする方々が利用しやすい事業として体制等を整えていく。

## (2) プロジェクトの総括と評価

### 〈総括〉

- 「子育ては楽しいもの」「子育てを楽しむことが親と子どもの幸せにつながる」という考えの下、親子で集え楽しむことのできる場の充実に努めてきたが、各取組は、新型コロナウイルス感染症により少なからず影響を受けた。
- 特に子育て支援センター及び子育て拠点施設などの利用については大幅な減少を見せたものの、子どもたちの安全・安心な遊び場の確保のためまずは感染症の拡大予防対策を確実に講じつつ、親子が共に集える場を継続的に提供してきた。
- また、親子が共に楽しめる場である公園については、引き続き、子どもが他とのコミュニケーションによる関係性を構築しつつ自由な発想で遊びを創造できる場となるよう遊具の選定や配置を検討するとともに、景観や自然等、その公園が有する強み・魅力を活かしつつ親子が自然と触れ合いながら共に楽しめる場としなるよう整備を進めていく。
- 子育ての不安への対応については、産婦及び乳児に対し心身のケアや育児のサポート等の支援を行っていく産後ケア事業を開始したほか、子育て世代の経済的負担の軽減を図る子ども医療費助成事業の更なる拡充を検討した。
- 子育て世代の経済的負担や不安を軽減し、保護者自身が素直に子育てを楽しみ、子どもにとってもそうした楽しみの中で成長していける環境づくりに引き続き努めていく。

### 〈評価〉

停滞	やや停滞	着 実	やや推進	推 進
----	------	-----	------	-----

(1) 施策の状況

ア 母子保健、家庭教育の充実

○ 正しい生活リズムや習慣は、就学前に身に付けさせる必要があることから、「眠育」の取組対象を幼児期に拡大し注力していくこととした。まずは市内全公立保育所から実施するが、今後は全私立保育園へ拡大していく。

指標の状況						第2期の主な取組項目	令和2年度の取組成果	令和3年度の取組計画
H30	R元	R2	R3	R4	目標値			
子ども一人当たりの虫歯本数(5歳児)						母子の歯科保健の充実	保育所(園)、幼稚園、認定こども園の全施設において、フッ化物洗口を実施した。 ・実施方法 1分間ブクブクうがい(週5日) ・実施時期 年長(5歳)児：通年 年中(4歳)児：9月～3月	引き続き、保育所(園)、幼稚園、認定こども園において、フッ化物洗口を実施する。
0.97本	1.19本	0.93本	本	本	0.70本			
子ども一人当たりの母子保健費【再掲】						「眠育」(早寝、早起)の啓発強化	眠育指導者の養成研修を実施したほか、モデル地区(瑞穂・四つ葉・三条おおじま学園エリア)の保育所等と小中学校において2週間の睡眠調査を実施した。 また、乳幼児健診等における保健指導及び事後フォローなどにおいて眠育の啓発を実施した。	これまでのモデル地区における眠育の取組は引き続き実施するが、今後は取組の対象を幼児期(年長児)に注力していくこととした。 令和3年度においては、まずは公立保育所において睡眠調査を実施する。
27,838円	28,571円	(概算)25,789円	円	円	増加			
睡眠時間が9時間未満の5歳児の割合						乳幼児とのふれあい体験の充実	市内2校(当初予定7校)の中学3年生が保育所等で幼児とのふれあい活動を実施した。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため直接ふれあい活動を避け見学を中心とし、他の5校は中止とした。	乳幼児とのふれあい体験は、乳幼児とその保護者が集まる機会を活用し、これから親となる若い世代が子育てに関し学習できる場であることから、確実に実施できるよう対策を施していく。
39.6%	31.0%	24.1%	%	%	20.0%			

## (1) 施策の状況

## イ 子どもの発育・子育て相談の充実

- 子育て支援センターや子育て拠点施設など身近で相談できる機会が増えていることもあり、子どもの発育・子育て相談の件数の推移は一様の傾向を示していないが、他方で子育て中の保護者の悩みが多様化している中、臨床心理士や言語聴覚士による相談を継続して実施し専門的な知見から細かき、かつ、幅広い対応を図っていく。
- 情報発信については情報の受け手の立場に立ち、子育て支援サイトの検討に当たっては、子育て世代のニーズに合う利便性の高いものとして検討を行っていく。

指標の状況						第2期の主な取組項目	令和2年度の実績	令和3年度の実績
H30	R元	R2	R3	R4	目標値			
子どもの発育・子育て相談の件数						相談事業の充実	月1回土曜日を時間外相談日とし、平日仕事で参加が難しい保護者からの相談に対応した。保護者団体からの出張相談にも対応した。 ・臨床心理士相談 51回 141件 ・言語聴覚士相談 31回 60件	月1回の土曜日相談を継続実施するほか、保護者団体からの出張相談に積極的に対応していく。
401件	296件	302件	件	件	420件			
子育て支援情報メールの登録者数【再掲】						子育てに関する情報発信の充実	広報さんじょうへの掲載のほか、子育て支援情報メールを定期的に配信し、子育てに関する情報の周知に努めた。	ホームページや子育て支援情報メールに加え、新たにTwitterも活用し情報発信に努める。 また、子育て世代に対し必要な情報が的確に届くよう、総合的な子育て支援サイトとしての構築を検討する。
2,877人	3,639人	3,995人	人	人	6,000人			

## (1) 施策の状況

## ウ 子ども・若者の社会形成、社会参加の推進

○ 青少年育成市民会議、青少年指導委員会、子ども会連合会などにおいては、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため各種取組を中止せざるを得ない状況にあったが、「私のメッセージ三条市小学生大会」などの意見発表の場は、感染防止の対策を講じつつ、実施することができた。

こうした、子どもや若者が自己の考えを自信をもって表明する場や他者と触れ合い交流を図る機会は、子どもや若者が自らの力を地域社会で発揮していくとする意識付けにつながることから、感染症対策を施しながら取組を維持していけるよう検討する必要がある。

指標の状況						第2期の主な取組項目	令和2年度の取組成果	令和3年度の取組計画
H30	R元	R2	R3	R4	目標値			
不登校児童生徒の発生率の全国平均との差						子ども・若者の意見表明機会の充実	青少年育成市民会議との連携による「私のメッセージ三条市小学生大会」「高校生と先輩たちのユーストーク」を実施し、子ども・若者が意見表明する機会を設けた。 ・高校生と先輩たちのユーストーク（青少年座談会）(10/8) 出席者 高校生4人、青少年3人 ・第16回 私のメッセージ三条市小学生大会（11/12） 発表者 市内小学生20人	新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた上で、昨年に引き続き、子ども・若者の意見表明機会を設ける。
小学校 +0.04%	小学校 -0.23%	小学校 %	小学校 %	小学校 %	小学校 -0.15%			
中学校 -0.31%	中学校 -0.59%	中学校 %	中学校 %	中学校 %	中学校 -0.37%			
勤労青少年ホーム35歳以下登録者数								
130人	197人	224人	人	人	210人			

## (2) プロジェクトの総括と評価

### 〈総括〉

- 「時代を担う子ども・若者の健やかな成長」のためには、心身の両面から支援し、又は、対策を施していく必要がある。
- 母子保健の取組では、新型コロナウイルス感染症により、実施の延期等の若干の取扱いの変更が生じたものの、各年齢層に応じた乳幼児健診を確実に実施してきた。また、保育所等のフッ化物洗口が定着したことや、引き続き「眠育」に取り組んできたことにより、子どもたちの健やかな成長を図る取組は推進されてきた。こうした取組は、一朝一夕に成果・効果を出せるものではないため、引き続き、着実に進めていく必要がある。とりわけ「眠育」については、取組を進めてきた中で睡眠時間が9時間未満の児童の割合が年々減少し、十分な睡眠を取る児童が増えつつあり、着実に成果を上げている。
- 青少年の健全育成に係る関係団体においては、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、多くの取組を中止せざるを得なかった。子どもや若者が自己の考えを自信をもって表明する場や他者とふれあい交流を図る機会については、子どもや若者が自らの力を地域社会で発揮していくとする意識付けにつながることから、感染症対策を工夫しながら取組の維持を検討していく必要がある。  
さらに、保護者のニーズや子ども・若者の価値観も変化している中、一つ一つの取組についてその効果を検証し必要な見直しを施していく必要がある。

### 〈評価〉

停 滞	やや停滞	着 実	やや推進	推 進
-----	------	-----	------	-----



(1) 施策の状況

ア 子ども・若者総合サポートシステムの充実

○ 児童虐待対応においては、ノウハウ・知見が蓄積され確実に個別ケースに対応しきれていることや、障がい等を有する子どもたちの個に応じた支援においても、早期の気付きや保護者への共有も確実に進みつつあり潜在的な発達障がい等の顕在化が進んできていることなど、基本的には、総合サポートシステムは全体として支障なく機能している。

しかし、システム立上げから相当の年数を経ている中、よりの確かつスムーズな支援の実施のため、取組の各所について点検し、調整を図っていく必要がある。

指標の状況						第2期の主な取組項目	令和2年度の取組成果	令和3年度の取組計画
H30	R元	R2	R3	R4	目標値			
子ども・若者総合サポートシステム登録希望者数						養育支援訪問事業の充実	医療機関や助産師等の関係機関に事業を周知し、情報提供・共有化を図りながら妊娠、出産、子育てに不安があり継続的な支援を必要とする人に対し支援を行った。 ・訪問実人数 9人 延べ46人	引き続き、養育支援訪問事業を実施するとともに、関連事業である産後ケア事業開始後の実態を把握しながら、家族の支援が得られない等の妊産婦に対し、家事支援の実施に向けた検討を進める。
87人	85人	83人	人	人	100人			
青少年相談件数								
254件	311件	310件	件	件	380件			
三条地域若者サポートステーションでの進路決定割合						若者への支援体制の強化	青少年相談業務をアウトリーチ機能を有する民間団体三条地域若者サポートステーションに引き続き委託し、連携して若者支援の相談体制の強化を図った。 ・相談件数 310件	子ども・若者総合サポートシステムの若者支援部会の登録者情報を部内で情報共有し支援内容を確認し合い、必要に応じて支援を講じるとともに、引き続き、青少年相談業務において訪問、来所、電話など、ニーズに応じた相談対応を進めていく。
8.9%	9.1%	8.6%	%	%	10.0%			

## イ 三条っ子発達応援事業の充実

- 「気付き事業」の中核となる「年中児発達参観」は市内保育所等においてほぼ定着し、保護者の理解も進んでおり、個に応じた支援の必要性への早期の気付きに効果を上げている。
- これに加え、各保育所等に配置している「発達支援コーディネーター」による事前の気付き件数も年々増加しており、参観前からのより早期に必要な支援につなげていくことにおいても着実な成果を上げている。
- 今後は、発達支援コーディネーターの更なるスキルの向上を図りつつ、引き続き、個に応じた具体的な支援への確につないでいく。

指標の状況						第2期の主な取組項目	令和2年度の取組成果	令和3年度の取組計画
H30	R元	R2	R3	R4	目標値			
年中児発達参観前に特別な支援や配慮を要する子どもに気付く割合						年中児発達参観の全市実施	子どもの育ちや個性に早期に気づくため「年中児発達参観」を31施設で実施し、必要な支援に繋げた。 ・公立保育所 9施設 ・私立保育園 17施設 ・私立幼稚園 2施設 ・認定こども園 3施設 ・対象児童 700人(681人参加) ・延べ実施回数 57回	引き続き、年中児発達参観を着実に実施する。
85.2%	82.4%	83.9%	%	%	89.0%			
発達支援に係るコーディネーターの資質の向上						発達支援に係るコーディネーターの資質の向上	発達支援コーディネーター研修を実施し適切な指導体制の整備に努めた。 ・受講施設 22施設 ・スキルアップ編研修(22人) ※ 基礎編・応用編とスキルアップ編とで隔年実施	障がいや発達の遅れのある子どもの個々の状態に配慮した支援を行うため、引き続き、発達支援コーディネーター研修を実施し、資質の向上を図る。

## (2) プロジェクトの総括と評価

### 〈総括〉

- 外出控え、経済的困窮など、ウイルス禍の影響による保護者が抱える課題も少なからず生じてきていると言われる中、また、核家族化の進行、保護者の親としての成熟度の不足などにより児童虐待のケースが年々発生しやすい環境となっている中であっても、「子ども・若者総合サポートシステム」については、ノウハウ・知見が蓄積され確実に個別ケースに対応している。  
また、障がい等を有する子どもたちの個に応じた支援の必要性への早期の気づきが定着し潜在的な発達障がい等の顕在化も確実に進んできていることなど、基本的に全体として支障なく機能している。  
しかし、システム立上げから相当の年数を経ている中、例えば、各部会において本来求めた役割が全うできているか、当初想定した連携は具体的に図られているかなど、取組の各所について点検し必要な改善を施していく必要がある。
- また、特に障がいへの個に応じた支援については、その必要性に早期に気づき支援につなぐことが肝要であることから、引き続き、発達支援コーディネーターの更なるスキルの向上を図っていく。

### 〈評価〉

停滞	やや停滞	着実	やや推進	推進
----	------	----	------	----

(1) 施策の状況

ア 子ども・子育て家庭を支えるまちづくりの推進

- 青少年育成市民会議、青少年指導委員会、子ども会連合会など、地域の各種団体においては、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため多くの取組を中止せざるを得なかった。地域ぐるみで子育て家庭を応援しようという機運の醸成を図り子育て家庭に優しいまちづくりを追求していく中で、活動が停滞しないよう実施に向けた支援を行っていく必要がある。
- 18歳未満の子どもを3人以上養育している保護者等に交付している「サンキッズカード」は、地域の事業所の賛同・協力を得つつ広く浸透しているが、取組開始から相当の年数が経過してきている中、子育て世代の生活態様等の現状を分析しつつその役割の妥当性も検証していく必要がある。

指標の状況						第2期の主な取組項目	令和2年度の実績	令和3年度の実績	
H30	R元	R2	R3	R4	目標値				
青少年育成市民会議小学校区・地域育成活動助成金申請件数	13件	14件	26件	件	件	18件	関係団体への支援の強化	令和2年度の実績 青少年育成関係団体の事務局業務においては、団体ごとの青少年健全育成に対する方針と、市の取組の方向性について擦り合わせをしながら支援を進めた。	令和3年度の実績 新型コロナウイルス感染症による各種団体活動への影響は大きいものの、引き続き、各団体が青少年健全育成の取組を進められるよう支援していく。
サンキッズカード累計交付枚数	4,443枚	4,725枚	5,051枚	枚	枚	5,000枚			

イ 地域における安全・安心の確保

- 道路事業関係部局等による「通学路安全推進会議」において各学校からの道路環境の改善要望を協議し、子どもの通学環境の改善について可能な限り対応を図った。引き続き、連携しつつ通学路の安全確保を図っていく。
- 依然として不審者に関する通報は絶えない状況にあり、引き続き、安心・安全情報メール等により注意喚起をしていくことはもちろん、徹底して巡回を実施していく必要がある。（安心・安全情報メールによる防犯情報配信件数 R2：48件）

指標の状況						第2期の主な取組項目	令和2年度の実績	令和3年度の実績	
H30	R元	R2	R3	R4	目標値				
安心・安全情報メールの配信登録者数	8,586人	9,571人	11,151人	人	人	12,000人	通学路の確認	令和2年度の実績 関係機関による通学路安全推進会議において各学校からの通学路改善要望を協議し対応を図った。	令和3年度の実績 引き続き、通学路安全推進会議により、各学校からの要望を踏まえ、通学路の改善を図る。

## (2) プロジェクトの総括と評価

### 〈総括〉

- 子ども・若者を取り巻く地域社会は、彼らが健やかに成長することができる活力あるものでなければならぬ。
- 地域の安全・安心の確保のため、登下校時のスクールバスの運行、通学路安全推進会議の開催による通学路の改善等を進めることで、子どもの安全・安心の確保を進めてきた。地域と学校が連携して子どもたちを守る取組の重要度がますます高まってきているため、自治会やPTA等による登下校時の見守りや青少年指導委員による巡回等を引き続き進めていく必要がある。
- 青少年育成市民会議、青少年指導委員会、子ども会連合会などの各種関係団体においては、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため多くの取組を中止せざるを得なかったが、感染症対策を工夫しながら取組の維持を検討していく必要がある。

### 〈評価〉

停 滞	やや停滞	着 実	やや推進	推 進
-----	------	-----	------	-----

子育てに優しいまちづくりは、「親が安心して子育てを楽しみ、次代を担うすべての子どもたちが心身ともに健やかに育つこと」を目指し子どもの育成環境を様々な側面から調べていくことにある。

そのため、令和2年度は、私立保育園の移転改築へ支援するなど、保育環境の向上を図り母親が働きやすい環境の整備に努めたほか、出産前後の不安定な母親の困り感を取り除く産後ケア事業、医療的なケアが必要な児童であっても保育を受けられる環境整備、配慮を要する児童が安心して放課後を過ごせる「さんさん児童クラブ」の開設など、顕在化することは少ないが子育てにおいて大きなジレンマとなる課題の解消にも注力してきた。

これら各般にわたる取組一つ一つは、言わば、困り感を解消しいずれの家庭においてもより良い子育てが実現できるようにするための環境整備であり、総じて、すまいる子ども・若者プランの計画初年度としては、一つ一つの取組そのものは着実に推進された。

しかし、社会的にも問題となっている保育士の人材不足については直ちに確かな解決策を打ち一日も早く解消を図らなければならないなど、いくつかの課題も存在している。

また他方で、すべての子育て世帯が経験する子育てに係る経済的負担を軽減することなど、子育て世代の不安や負担を解消し、全体として行政や地域に守られていると安心していただく環境づくりも肝要である。それがひいては子育て世代が選びたくなる子育てに優しいまちづくりにもつながるものであり、今後は、これまでも増し、そうした側面も併せ注力し取組を展開していく必要がある。

さらに、昨年から続く新型コロナウイルス感染症の拡大傾向は、人の日常の活動を大きく制限し、保育や青少年育成の取組など、人と人とのコミュニケーションやふれあいを基本とする子育て支援施策に対しても影響を与えた。

ウイルス禍の収束が予断を許さない状況にあっては、まずは子どもたちの安全を第一に十分な対策を施しつつ、求めた施策目的に立ち返り取組そのものも新たな形態に変化させ、維持していくことに徹底してこだわっていく必要がある。